

埼玉県総合リハビリテーションセンターだより



<今号の内容>

- 第1病棟の紹介.....1
- いろいろなスポーツ大会1 2
- いろいろなスポーツ大会2.....3
- 新任医師紹介・相談陪紹介.....4



<ランチタイムセミナー情報>
過去のセミナーも随時公開中！

発行：埼玉県総合リハビリテーションセンター
〒362-8567 埼玉県上尾市西貝塚 148-1
TEL 048-781-2222

第1病棟のご紹介

第1病棟はセンターの南側、F棟3階にある病棟です。脳卒中や脊髄損傷、脳性麻痺が原因で痙縮がある患者さんや神経難病の患者さんが、手術や検査、リハビリを目的に入院しています。障害進行に伴う症状の改善などのために、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供し、日常生活の質（QOL）の向上を目指しています。今回は、第1病棟にどのような方が入院しているかをご紹介します。

整形外科

整形外科では、骨折や関節の病気だけでなく、脳卒中や脳性麻痺など神経系の病気の後遺症による身体機能の低下にも対応しています。入院期間は1ヵ月程度です。

脳性麻痺で手足の筋肉が緊張し、つっぱりやこわばりが強く歩きにくい患者さんに対しては、装具の作製やボツリヌス毒素療法などを行い、つっぱりの改善を図ります。また、電動車いすの練習を通して、自立した生活を送れるようサポートしています。股関節の内転拘縮により股が開きにくくおむつ交換が困難な患者さんに対しては、内転筋切断術を行うことで、おむつ交換をしやすい状態へと改善し、ご本人だけでなく、介護される方の負担軽減にも繋がっています。

脳卒中後の内反尖足という足の変形が起きてしまった患者さんには、アキレス腱等の腱の手術を行い尖足を矯正して、重い装具から軽い装具への変更を目指し、歩行の改善を図っています。



脳神経内科



埼玉県マスコット「コバトン」

脳神経内科ではアルツハイマー病の最新の治療薬、レケンビ®やケサンラ®を導入しています。アルツハイマー病の診断は、1泊2日の入院で脳脊髄液検査を行い、診断を確定します。その後は、日帰りでの治療が可能です。

パーキンソン病の患者さんに対しては1~4週間の入院で診断・精査、医師による診察に加え、リハビリテーションによる身体機能評価も実施することで、患者さんの状態を総合的に把握し、適切な治療計画を立てています。

また、ALS（筋萎縮性側索硬化症）、多系統萎縮症などの神経難病の患者さんに対して、数日から2週間のレスパイト入院を提供してご家族の負担軽減のサポートを行っています。



脳神経外科

脳神経外科では、パーキンソン病、振戦、ジストニアに対する脳深部刺激療法（DBS）、難治性疼痛に対する脊髄刺激療法（SCS）、痙縮に対するバクロフェン持続髄注療法（ITB）を行っています。

DBSは、脳内に電極を埋め込み、異常な神経活動を調整することで、振戦（ふるえ）などの不随意運動の症状を軽減する治療法です。

SCSは、脊髄に電極を留置して痛みの信号を遮断する治療法で、慢性的な痛みに有効です。

ITBは、バクロフェンを持続的に脊髄に注入し、筋肉の緊張を緩和する治療法で脳血管障害や脳性麻痺等により重度の痙縮のある方を対象に行っています。これらの手術に加え、手術適応を検討するための検査入院も実施しています。

リハビリ病院という当センターの利点を活かして、手術早期からリハビリテーションを開始し、神経機能の回復を図るなど、患者さん一人一人に最適な治療方法を提案しています。



患者さん、ご家族が安心して治療やリハビリに専念できるよう支援していきます。入院の相談等、何かご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

電話 048-781-2222（代表電話）



いろいろなスポーツ大会を開催！

健康増進担当では、主に健康増進施設のご利用者を対象に、「プチ大会」（小さなスポーツ大会）を年に数回開催しています。日頃の練習の成果を発揮したり、ご利用者同士の交流を深めたり、外部のスポーツ大会参加のきっかけになるように企画しています。

プチ卓球ラリー大会 1月27日(月)～31日(金)

この大会では、ご利用者と職員で行う「シングルス部門」、ご利用者2名と職員で行う「ダブルス部門」、ご利用者同士で行う「フレンドリー部門」を設定しました。3分間での連続ラリー回数を競います。真剣に集中しながらも、笑いあり、緊張あり、応援あり。最高記録はシングルス部門で322回、ダブルス部門で296回、フレンドリー部門で191回でした。

写真はフレンドリー部門の様子です。



プチ一般卓球大会

2月10日(月)



卓球好きのご利用者が集結し、一般的な卓球同様、1対1で試合をしました。申し込みのあった6名を2つに分けて予選リーグ、その後決勝トーナメントを実施。「卓球の試合なんて初めて」という初参加の方が3名いました。卓球経験も、障害も、年齢も、バラバラの選手たちでしたが、勝負する難しさや緊張感を楽しみました。写真は試合後の選手たちです。

四面卓球バレー大会

2月28日(金)

障害者支援施設のご利用者（通所）と、健康増進施設のご利用者、総勢40人を8班に分け、全10試合を実施しました。顔なじみのご利用者も、普段は関わりのないご利用者も、チーム一丸となって、勝利を目指して戦いました。協力スタッフからは「〇〇さんがとても上手で驚きました」との感想。普段の訓練では見られない一面が見られたり、勝って嬉しい、負けて悔しい気持ちを表情に出したり、非日常を楽しみました。“交流”できるスポーツの良さを感じた時間でした。



コートを囲んで集合写真

上尾シティハーフマラソンに職員が参加！ 11月17日(日)



リハビリスタッフや看護師、体育指導員など、センター職員が、上尾シティマラソンに参加しました。有志で作成したお揃いのTシャツを着て、上尾市内を走りました。沿道には応援に駆け付けた患者さんの姿もあり、職員はパワーをいただきました。来年度はもっと人数を増やして参加したいと思います。ご声援ありがとうございました。（参加職員一同）

新規採用医師紹介



氏 名：渡邊 充
職 名：医長
診療科目：脳神経外科
卒業学校：日本大学
出身医局：日本大学 医学部 脳神経外科
資 格：脳神経外科専門医
研究・専門領域：機能神経外科 電気生理学 脳機能画像

1月より赴任しました、脳神経外科の渡邊充です。前回の勤務から21か月ぶりにリハビリセンターに戻ってまいりました。

これまでパーキンソン病や振戦などの不随意運動症、痙縮や脳卒中後などに生じる難治性疼痛に対して、DBS（脳深部刺激療法）、SCS（脊髄刺激療法）、ITB（髄腔内バクロフェン療法）などの神経を調節するデバイスを用いたニューロモデュレーション治療を中心に、20年間診療・研究・教育を行ってきました。

近年、この分野は自動調節機能・遠隔診療などの新しい技術のほか、集束超音波療法という切らない治療法も開発され、保険診療で用いられるようになりました。非常に目覚ましい進歩を遂げている領域であると実感しております。

治療の難しい病ではありますが、最新の知見とこれまでの経験を基に、少しでも皆様のお役に立てるよう邁進してまいります。

【知的障害者更生相談所のご紹介】

当センターでは知的障害者更生相談所を運営しています。

今回は、市町村からの依頼により、当センターで行っている18歳以上の療育手帳の判定についてご紹介します。

【療育手帳とは】

療育手帳は知的障害のある方が、様々なサービスを利用することができるよう交付されるものです。療育手帳の交付を申請された18歳以上の方について、手帳交付の対象になるか障害の程度についての判定を行っています。

なお、さいたま市にお住まいの方は、さいたま市障害者更生相談センターが判定を行っています。

【障害の程度の判定方法】

以下の方法により総合的に判断し決定されます。

- ① 本人の知能検査
- ② 家族から、生育歴や現在の日常生活・社会生活の状況などの聞き取り
- ③ 新規申請の場合には、医師の診察による医学的判定



★相談は当センターの他、県内各地で巡回相談を実施しています。

★手帳の交付を希望される場合は、まずお住まいの市町村の知的障害者福祉担当の窓口にご相談ください。